

俺の名前は、ユウタ。  
今年で20歳になり成人となったわけだが、

「はあ、そう素晴らしい求人なんてないものだな。」

実はかなり生活が苦しい。  
と、いうのも先月バイト先の店が突然潰れて  
しまった。

俺は、無収入となり生活に困ってしまった。  
そして、その状況にさらに追い打ちが、

「なんでこんなときにアパートが火事になる  
んだよ。」

住んでいたアパートが先週火事で燃えて  
しまった。隣の部屋から出火したようだが、

俺は家には不在。  
おかげで家具などはほとんど焼けてしまう。

そして、俺のミスだが火災保険の更新を怠って  
いたせいで保険もおりない最悪な状態となった。

現在住む場所がない俺は、臨時としてネット  
カフェで生活しているが、とてもじゃないが収入  
のない俺には金銭的にまづかった。

A: 神社の清掃、雑務、裏稼業  
日給3万円+宿舍費

神社で住み込みアルバイト  
神社の清掃、雑務、裏稼業  
をやってもらいます



「これはもう選んでばかりいられないな…  
うん、これは？」

ふと、求人雑誌の隅の方を見た。そこには、  
変な求人が書かれていた。

「神社で住み込みアルバイト？…条件は、未婚  
20代男性で精力に自信がある人。…  
日給3万円！！」

無茶苦茶いい求人である。業務は、境内の清掃、  
雑務、裏稼業の手伝い。

「裏稼業の手伝い？なんだこれは？…うーん、  
まあ給料もいいし住む場所も得られるから  
いいな。それに神社の仕事とか面白そうだな。  
とりあえず電話してみるか。」

俺は、神社に電話するとあっさりと面接の予約  
を取ることができた。

A:神社の清掃、雑務、裏稼業  
日給3万円+宿舍費

神社で住み込みアルバイト  
神社の清掃、雑務、裏稼業  
をやってもらいます



次の日

俺はバイトの面接のため、神社に向かった。

「ふう、山中とあったがまさかここまでとは…。」

俺は、最寄りの駅から神社に向かっているがすでに歩いて三十分以上が経つ。未だに見えてこない。

「これは、住み込みでないと確かに無理だ。」

愚痴を言いながら俺は、きつい道のりをさらに三十分近く歩いてようやく目的の神社へと着いた。

「ここが玉宝神社か。ふむ、けっこうじんまりと  
しているな。」

神社はしつかりとした鳥居があるが、社殿はそこまで大きくない。よくある小さな町にある神社という感じである。

俺は、神社の境内に入りあたりを見回していると、



「玉宝神社によくお越し下さりました。」

俺は声がした方へ振り返ると、そこには巫女服を着た綺麗な女性が立っていた。俺は、その女性があまりにも綺麗なもので少し見とれてしまっている、

「今回はどのようなご用事でこちらに？」

「ああ、すみません。私は桃浜ユウタといいます。昨日、バイトの面接を予約したのですが。」

「あなたが桃浜様ですか。よくいらっしゃいました。私はこの神社の神主、古賀サクラと申します。」

「え！あなたが神主さん??？」





さすがに俺はびっくりした。まず、女の神主なんてあまり見かけないし、何より彼女はまだ20歳ぐらいにしか見えなかった。俺が反応に困っていると、さくらは話始める。

「桃浜様は、未婚で20歳でしたね。体も健康そうですしアルバイトの条件は満たしています。ただ、この神社で働くにはある試練に合格してもらわなければならない。」

「試練ですか？どのようなことをするのですか？」



「実際にやってもらった方が早いと存じます。試練の場へお連れします。」

そういうと、サクラは俺を神社の奥へと案内を始める。



「それにしても神主さんは若く見えますが？」

「はい、今年20歳になりました。これでも神主になって5年目を迎えるのですよ。」

「そうなんですか？俺と同じ年で神主をやっているなんてすごいな神主さんは。」

「そうでもありませんよ。私は親の職をそのまま引き継いだけですから。あと、神主と呼ばなくっていいですよ。サクラとお呼び下さい。」

「わかりました。俺もユウタと読んでください。サクラさん。」

と、俺はサクラと話をしながら歩いて行くと、水汲み場のような場所に湧水が出ている。その湧水が沸いている横に縦長の岩があり、そこに『精大神水』と書いている。



「ここが試練の場所です。この湧水は神様が創られたという伝説があり、神社に仕えるものは必ず飲む必要があります。」

「え？飲むんですか？だ、大丈夫ですよね。」

「山の湧水ですので、お腹を崩すことはないです。なので、早く飲んでください。」

「え、あ…は、はい。」

サクラになんか急かされてしまい、俺は謎の湧水を飲んだ。

水は、冷たくなかなかおいしい湧水だった。

「おいしい湧水ですね。えっと、これ以外に試練は何を？」

「そうですか。じゃあ、試練に合格したか確認しますね。」

「え？どういうことですか？」

と、意味がわからない俺はサクラを見る。すると、サクラはじっと俺を見つめている。俺は、少し恥ずかしくなり下を見てしまったが、そのとき彼女の体が目に入る。



非常に大きな胸が魅力的で柔らかさそうな  
手が俺の体を火照らせる。  
ふと、気付くと俺は勃起していた。  
それをサクラはじっと見ていた。

「あ、いや違いますよ。サクラさんの体見て  
興奮したわけでは。」

「元気そうでした。もっと良く見せて  
下さい。」

「え、いやさくらさん??ちよつとなんで  
ズボンを…」

「うふ!すつごく元気ですね。パンツの上  
からでもわかります。」

「なんでこんなことを…あ、ちよつと!」

くんくん



「わああ！想像以上に大きいですね。これは、たつぷりと子種汁がでそうですね。」

ニョキ〜

「子種汁って…ああ、そんな触ると…」

「ふふ！気持ちいいんですね。さらに大きく硬くなりました。じゃあ、こうするとどうですか？」



「ジュルルルル！ジュルルルル！ジュブ♡」

ジュルルルルル...

ジュブ♡

「ああ、そんな口で…ああ、気持ちいいですよ、サクラさん。」

「ほんとですか！それならもっと気持ちよく。ジュルルルル！！」

「ああああ！すごい！！ああ！！」



「ジュルルル！ジュブジュブジュブジュブ  
ジュブジュブ！」

「ああ、激しい！」

「ジュブジュブジュブ！ジュルルル♡  
きもちいい？」

「はい、サクラさんの口まんこ最高です。」

「ふふふ、もっと気持ちよくしてあげる♡  
ジュブジュブジュブ！」

ジュブ♡  
ジュブジュブ♡

ジュブ♡  
ジュブ♡



「はあはあはあ…もう俺…出てしまう…ああー！」

「ジュブジュブジュブジュブ！ジュポ♡  
いいですよたっぷり子種汁を出して  
下さい♡ジュブジュブジュブジュブ！」

「あああ、で、射精る！！！」

ジュブ♡  
ジュブジュブ♡

ジュブ♡  
ジュブ♡



「ジュブジュブ！おふふふ  
ゴクゴクゴクゴクゴク！しゅー…  
ゴクゴク…ぼふごぼぼぼぼー！」

「ああ、サクラさんの口まんこに  
射精している。なんかいつもよりすごい  
出てる！！ああまだまだでるうううー！」

「ちよっと待っ…ごぼぼっぼぼぼ  
ごふうううううー！！」

ドビュ  
ドビュドビュ



「ごぼごぼ…すごい量…これは  
いい物持ってるわ。おぼ！」

「はあはあはあ、すごい気持ちよかったです。」

ゴフ

ゴフ  
ゴフ  
ごぼ!!





数分後：

「はあはあ…すごかったですね。ユウタさん、  
試練は合格です。」

「はあはあ…試練合格？これが試練なんですか。」

「はい、これが試練です。そして、この神社の  
裏稼業について説明させていただきます。」

サクラは、この神社の裏稼業について説明を  
始めた。この玉宝神社は、安産祈願の神様を  
祀っている一方、裏では子種の神様を祀っている。  
子種の神様は、とにかくモテたく多くの  
女性従者に子種を注ぎ子供を作った。



その子供の数は100人以上作ったらしく、  
その神様の子孫にあたる子供たちがのちに  
それぞれの神社などを創設。その一つがこの  
玉宝神社である。

そして、子種の神様を祀る神社では気付けば  
湧水が出るようになり、その水を飲んだ男性は  
神の力を得ることができるようになる。

それは、圧倒的な精液量を出るようになり  
どんな女性でも膣内に射精すれば妊娠させる  
ことができるようになるらしい。

サクラが言うには、今まで一人の男性に  
その水を飲んでもらい、中々妊娠できず悩む  
女性にひっそりと子種を付ける種付け師を  
行ってきたそう。



「以前は私の父が種付けをしていたのですが：先日、業務中にテクノブレイクで急死してしまい家業ができない状態だったんです。」

「テクノブレイク？まあ、不幸があったということですね。でも、そんな便利な湧水があれば困っている人の夫に飲ませればいいのでは？」

「残念ながら水の効果を得られるのは、前人が死んだあとの一人だけなんです。なのでこの家業は一人の方しかお願いできないのです。」

「ふむ、なるほど。でも、こんな家業を依頼する人っているんですか。」



「ふふ。今の時代でも子供が中々できず悩んでいる家庭は多いのですよ。そして、子供ができないことで困る女性も多くのです。その悩める女性を救ってきたのが子種の神様なのですよ。あと、もう断ることはできませんのでお願いします。」

「うわ、本人同意なしですか。でもまあ、悩める女性を救うためですか。」

「はい、性交をしてもらいます。さっそく明日に予約した女性がいまますのでよろしくお願い致しますね。」

「ええ！あ、明日！」

俺は、拒否権もなくこの玉宝神社で種付けアルバイト始めることになった。





体験版をご閲覧頂きありがとうございます。

続きは本作品で見ることができます。

本作品では、基本CG画像11枚、差分CG画像75枚、テキスト差分CG画像116枚となっています。

本作品もよろしく願いいたします。

進捗報告サイト <https://ci-en.jp/creator/2337>